

平成31年3月4日（月）

老球の細道467号

## コーチは選手から選ばれる

会津バスケットボール協会 室井 富仁

かつて「お客様は神様です」と名言を発したのは今は亡き国民的大歌手三波春夫だった。終戦直後シベリアに抑留されたが、得意の歌で抑留されていた人達を励ましたという。その後、昭和の高度成長期2大イベント、東京五輪（「東京五輪音頭♪」）、大阪万博（「世界の国からこんにちは♪」）のテーマ曲を唄って高度成長に勢いをつけてくれた。スポーツの世界でも「選手は神様です」のニュースがあった。女子テニス世界ランキング1位だった大阪なおみ選手がサージャ・バインコーチを解雇した。テニスの世界のビックタイトルを2回獲得し、それによってバインコーチは世界テニス協会の「コーチ・オブ・ザ・イヤー」も受賞して、理想的な選手とコーチの関係のようだったが、何事も一寸先は闇である。特に人間関係は・・・。二人に何が起こったのだろうか。

色々な憶測があるようであるが、朝日新聞によると、コーチ・バイン氏との別れは、大阪が決断したらしい。「私はテニスの成績の成功よりも、幸福感を優先したい。一緒にいて楽しくない人と過ごすことで自分を苦しめたくない」。契約解除の理由をこのように述べていたという。コーチとの離別直後のドバイでの大会は初戦の2回戦で格下の相手に負けてしまった。「我慢」「忍耐」を説き続けたバインコーチ不在が影響したのだろうか。

今やスポーツの世界はコーチが選手に選ばれる時代になってきている。試合結果だけでなく、コーチが選手に気に入られなくなると解雇されることが日常茶飯事である。そしてそのようなことがアマチュア、しかも育成年代の指導者にもこれから起こりえる。

来年度からU-12カテゴリーのチーム登録が原則自由となるようである。「良い環境の元でバスケットボールができるように」という理念のもとでの大改革である。今までは小学校区の地域内にあるチームに登録することが原則だったが、それが原則フリーとなるようである。良い環境の1番は、何と言っても「良いコーチ」の存在であろう。良いコーチの元にたくさんの選手が集まるようになるかもしれない。

この英断によってチームが成立しなくなったり、良い選手を集めてさらに勝利至上主義になるのではないかと心配する声もあがっている。何ごと改革は、最初は色々な混乱、デメリットもあるかもしれないが、長い目で見ると、良い指導、良い環境を提供するチームが生き残り、選手にとっては良いことである。その流れはU-12のみにとどまらず、中学、高校のレベルでもクラブチームの成立によって起こってくるだろう。

今後ボーっとしていられないのは「コーチ」である。勉強もしないでどなってばかりの「昔の名前で出ています（昔バスケットボールをかじっていた）」公認コーチは徐々に自然淘汰されていくことだろう。自己研修に励み、選手を大切にできるコーチが生き残る。

「コーチ」の名前のルーツは15、16世紀ハンガリーの「大型四輪馬車（Kocsis）コーチ」に由来する。大切なお客様を目的地まで運ぶ役割を、スポーツ選手の目標を達成できるように導いてやることになぞらえる。まさに選手はお客様、お客様は神様です。

ちなみに、三波春夫の「お客様は神様です」という言葉は、お客様を大切にするという意味と、お客様の前では、神前で祈るように澄み切った心で歌わなければ完璧な芸をお見せできないというものだったらしい。コーチもさもありなん。